



学校と地域で子どもを守る連絡会 地域で守ろう大切な子どもたち!

5月23日(火)古牧公民館において「学校と地域で子どもを守る連絡会」が開催されました。この会は古牧地区の小・中学校5校と長野中央警察署和田交番、古牧地区住民自治協議会の12地区が連携して地域の子もたちを守る取り組みの連絡会です。

5月から新型コロナウイルス感染症が国の感染法上の5類に移行されたことにより小・中学校・警察関係・12区の区長及び関係者総勢52名が一堂に参加されました。

最初に長野中央警察署和田交番の加部登志彦所長から現在の交通事故や犯罪等、諸情勢についての講話があり、続いて各小・中学校より登下校時の交通安全指導・不審者対策指導等の取り組み説明を頂き、子どもたちを守る取り組みについて情報を共有する

ことができました。

今回の連絡会を通じて、大切な子どもたちへの安全・安心を守るべく日頃から目を配り地域全体で一緒に取り組んでいくことの必要性を強く感じました。(防犯部)



あいさつ運動 元気よくおはよう!!

毎年恒例のあいさつ運動が5月8日(月)から19日(金)まで古牧12地区で実施されました。朝の通勤・通学時間帯に合わせて、各地区で青少年育成部が中心となり各区の役員の皆さまにご協力をいただき通学中の児童、生徒、通勤



などで道行く人にあいさつを実施しました。

子どもたちから進んであいさつをしてくれる姿や、大きな声であいさつを返して下さる方の姿もあり、あいさつ運動の参加者も元気をもらいました。また、中学校前では生徒さんもあいさつ運動に参加してくださり、とても気持ちの良い朝のひと時となりました。

あいさつをすることはあたり前のことですが、道行く知らない人へのあいさつはなかなかできないものです。しかし、あいさつをして嫌な気持ちになる人はいません。これからも、少し勇気を出して元気なあいさつから一日を始めてみてはどうでしょうか。

(青少年育成部)

地域の福祉活動の担い手 ～福祉推進員～

4月28日(金)古牧公民館で第1回福祉推進員研修会が開かれました。講師には長野市社会福祉協議会地域福祉課村田智徳係長、松岡伸樹主査をお迎えして、演題は「福祉推進員の役割」です。

地域福祉の必要性として、子育て中の親の孤立、一人暮らし高齢者の孤立、悪質商法による被害などこれまでの家族・友人・地域といった関係性の中では解決できない課題も増加しています。これらの課題の解決は地域の中で「気づいて」「受けとめて」「つないで」行政や福祉事業者と地域がお互いに連携して、誰もが安心していきいきと暮らせる状態を作っていくことが大切です。

また、福祉推進員の位置づけと役割として、福祉推進員は地域の福祉活動の担い手です。

サロン活動、見守り活動、あいさつ運動、介護者のつどい、一人暮らし高齢者のつどいなどたくさんの方の福祉活動にかかわります。

そして、福祉活動上の注意点として、誰にも

他人には知られたくない秘密がありますので活動上知り得た情報は、問題解決のためだけに活用し、むやみに他人に口外しないようにすることが重要です。

福祉推進員は地域のつなぎ役なので困った時は抱え込まず行政に相談することが大切です。

研修を通して福祉活動がおぼろげですがわかりました。(福祉健康部)



ゴミゼロ運動で街をきれいに

例年、長野市では5月と10月を大掃除月間と定め、「ゴミゼロ運動」を実施しています。古牧地区においても春の一斉清掃(道路脇の草取り、ごみ拾い、用水路の泥上げなど)が各区で行われました。ご参加いただいた区民の皆さま、ありがとうございました。

ゴミゼロ運動が始まったのは観光客によるポイ捨てごみの増加がきっかけとされています。私が小学生だった1990年代、人家の少ない幹線道路沿いにはポイ捨てされたであろう空



ゴミゼロ活動(五分一区)

き缶がたくさん落ちていました。2000年代に入ると、ポイ捨て自体は減少している気がしますが、代わりにコンビニエンスストア、高速道路のサービスエリア等に設置されているごみ箱に家庭ごみが持ち込まれ、捨てられるようになりました。また、地区内のごみ集積所にも指定のごみ袋に入れられていないごみが置かれている場面が散見されます。どんな事情があるにせよ片づける人がどんな気持ちになるかを考えれば、そのような行動は取れないと思うのですが…。

ところで、長野市民一人当たりのごみ排出総量は891.7g/人・日(2021年度)*だったそうです。これを多いととるか、少ないととるかは人それぞれかと思いますが、少しでも「ゼロ」に近づけられるようこの機会に日々の暮らしを見直してみてもはいかがでしょうか。

(環境美化部)

* (2023.1) 長野市環境部生活環境課「令和4年度長野市ごみ処理概要」

◆^{さんやき}裾花川の痕跡をたどる『ブラ上高田』を開催!◆

上高田区には、江戸時代の初期まで「裾花川」が流れていました。

市街化が進んだ上高田ですが、今でも旧裾花川の痕跡である「段差」がわかる場所がいくつもあり、その川境をぶらぶらとめぐるイベント『ブラ上高田』を5月21日に開催しました。

当日は上高田区民約60名が集まりました。4つの班に分かれて地元の南向歴史研究会の



案内で、小さいながらも区内に確実に続いている「段差」の説明を受けながら、また、途中では用水脇の細い道を通るところもあるなど、終着点の南向塚公園まで、約30分間のわくわくのお散歩でした。

参加した子どもからは「大きな川がこんなところに流れていたなんて」、「知らない道を通して楽しかった」、「(ゴール地点で用意していた)じゃがバターがおいしかった」、「(神社で待っていた)お獅子にがぶがぶされたのが楽しかった」など様々な感想をいただきました。

また子どもの保護者や長寿の方からは『へえ～そうなんだ!』という感じで、楽しい企画だった」という意見もいただき、公民館と育成会が力を合わせて開催したイベントに高評価をいただきました。

暑い日となりましたが、引き続き南向塚公園イベント広場において育成会主催の「凧揚げ」が行われ、親子の歓声が上がっていました。

(上高田公民館)

歴史探索

ぐるりわがまち

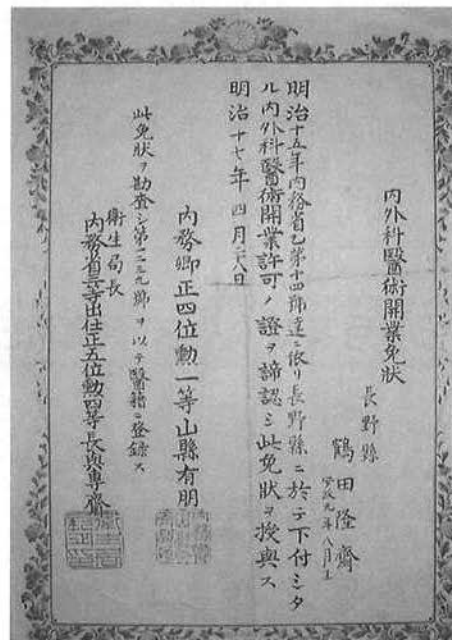
南高田区

高田村醫師『鶴田隆齋』種痘で尽力

古牧郷土史研究会 鶴田 良三

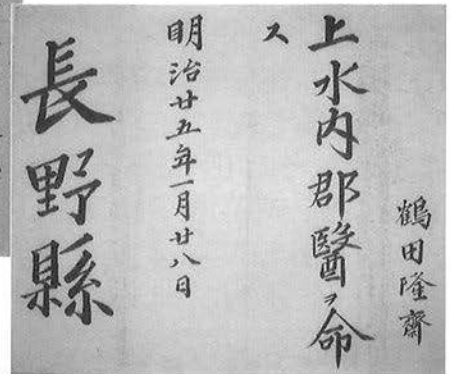
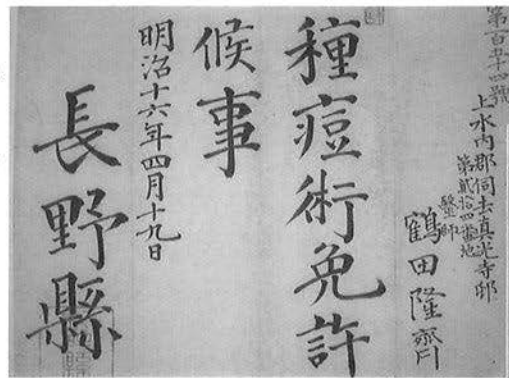
村(区)の行事・懇親会等で「お前はどこの人間だ?」「西光寺の西側の鶴田です」「オー医者の家か」とよく言われたものだ。三代前の事で偉大さはよく分からないが、我が家には当時を物語る証状類がある。名前は『鶴田隆齋』、肩書は「長野縣信濃國上水内郡古牧村寄留」「上水内郡醫」「高田村醫師」と様々。その証状の内容を紹介すると『種痘術免許(長野縣)』『内外科醫術開業免状(内務卿正四位勲一等山縣有朋)』、通達では「上水内郡医ヲ命ス(長野縣)」「種痘擔當醫二選定ス(西尾張部村外九カ村戸長役場)(朝陽村役場)」、その他、長野縣知事や村長からの無謝料種痘による頌詞(おほめの言葉)などがある。

次ページへつづく



これらは当家の貴重な宝物として保管している。南高田に殊勝な医者が居たことを紹介すると共に、跡絶えた医者の家系だが今海外で活躍する医師が身内にいるので何時しか南高田に復活し地域に貢献出来ればと、細い細い糸を心の中に秘めている。

※醫＝「医」の旧字体



娑婆鉛筆

時代の流れを感じて

ん！ここどこ
 営業で車で回っていた私が迷った？いや違う
 変わったのだ！
 一年ぶりに入った道、空き地に家が建ち、古い家が新しく建て替えられていたのだ。一年で見違えるほど新しくなっていた。
 世の中スピード感にあふれている。ついていけないのかな？いやついていこう！
 思えば田畑だらけの古牧地区だった。
 砂利だった道が広くなり舗装された。そして新しい道が何本もできた。道路の周りにビルが立ち、事務所、店舗ができた。住宅が立った。

そして、田畑がなくなった。
 田畑の中にあつた住宅が住宅の中に少しの田畑へと変わった。良くも悪くも変化した。
 この変化した古牧地区を見ることができて幸せなのか？
 幸せであると思う。時代の流れを肌で感じられている。
 生きていると感じられる。 (重田 洋子)



「ぶらネットこまき」の発行日の変更

ご愛読いただいております広報紙「ぶらネットこまき」の発行を毎月15日から毎月1日へ変更させていただきます。

なお、5月号(総会特集号)は、従来と同様に15日の発行になります。

7月から8月までの主な行事実施日のお知らせは回覧等でお知らせします。



古牧地区の世帯数と人口

令和5年5月1日現在

11,798世帯

26,272人

(男 13,034人 女 13,238人)

- 発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話 259-8359・FAX219-1057)
(E-mail:komaki@vivid.ocn.ne.jp)
- 発行者 田中 邦夫
- 編集 ぶらネットこまき編集委員会
- 印刷 SR



HP
 ご覧ください